

2025 年度（令和 7 年度）学校評価自己評価表

大門中学校区	校番54	福山市立野々浜小学校
最終更新日		2025年（令和7年）10月20日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感性
・子ども主体の活動を推進する。	・思考力・表現力に課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身につけた生徒
・情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る。	・他者理解の醸成が十分にできていない。	中学校区として統一した取組等	・「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 ・生徒指導の3機能を生かした生活づくりを進める。 ・運動に親しむ取組、体力向上の取組を進める。 ・学校における働き方改革を進める。
	・運動やスポーツに親しむ児童生徒が増えてきたが、運動習慣の活発・非活発群に二極化が見られる。		

III 自 校

ミッション		育成する力 資質・能力	課題発見・解決力	思考力・判断力・ 表現力	主体性・積極性	共感性	
「仲間と共に学ぶ楽しさ」「働く喜び」があり、 保護者・地域が誇りにする学校		めざす 子ども像	1、2 年	自分で疑問や課題を見付け、生活 体験や既習事項をもとにして解 決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて 自分の考えをもち、絵や言葉、動作 などを駆使して表現している。	自分がやらなければなら ない勉強や仕事を進んで 行っている。	身近な人に温かい心で 接している。
学校教育目標			3、4 年	疑問に思ったことから課題を設 定し、生活体験や既習事項、収集 した事項を根拠にして解決して いる。	生活体験や既習事項から理由や根拠 をもとに自分の考えをもち、絵や言 葉、動作など適切な方法を選択し、 表現している。	集団の中で、自分がやる べきことに気付き、進ん で行動している。	相手の気持ちを考え、 行動している。
よりよく生きようと学び合う子どもの育成 ～ かしこく うつくしく たくましく ～			5、6 年	疑問に思ったことから課題を設 定し、生活体験や既習事項、収集 した事項を根拠にして解決し、新 たな課題を見付けている。	生活体験や既習事項から適切な理由 や根拠をもとに、自分の考えをもち、 目的や意図に応じて、論理的に説明 したり、適切な方法を選択したりし て表現している。	集団の中で、相手や場の 状況に応じて、自分でよ り高い目標をもち、自分 から行動している。	相手を思いやることの 大切さに気付き、相手 の立場を尊重し、行動 している。
現 状							
＜児童生徒＞							
・基礎学力の定着、長文の読解力に課題がある。また、問題の意図を読み取り、自己の考えをまとめることも課題がある。							
・話を最後まで聞いたり、言葉で自分の考えを伝えたりすることが苦手であるため、児童同士のかわりにも課題がある。							
・目標設定や振り返りの充実によって目標をもつことへの意識が高まっている。							
・授業や行事、外遊びなどを通して、体力を高めようとしている。							
＜授業者＞							
・学力テスト等を全体で検証し、自校の課題から各自が改善計画を立てることができる。							
・自校の課題に対する学年での取組を継続的に進めたり、該当学年の学習内容の指導が十分でなかったりするため、全ての児童に基礎学力の定着を図ることができきれていない。							
・一人一人の児童の実態を的確にアセスメントし、児童の実態に応じた指導を行うことに課題がある。							
・自校の体力テストの課題に応じた研修を実施し、授業に還元している。							
		研究	テーマ	児童が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～指導と評価の一体化を基盤とした授業づくりを通して～			
			内容等	算数科を中心に、児童の実態に応じた指導方法を研究することを通して、「深い学び」 の実現を目指した授業づくりを創造する。			
		めざす授業の姿		・児童が進んで学びに向かい「できた・わかった・楽しい」と思う授業 ・児童が学び方、学習内容、表現方法を選択し、学びが深まる授業			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立野々浜小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	【確かな学力】 基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	継続	国語科・算数科における基礎学力の定着と「わかる」「できる」を実感する子ども主体の授業づくりの推進 【主】【思】	・学習活動や思考の過程で価値付けを行いながら、児童のやる気を引き出す授業づくりを行う。 ・授業改善や個別の指導・支援の充実、基礎・基本の問題の繰り返し、学習の徹底を図る。	①授業で「友達と考えると楽しい・わかるようになる」と回答した児童の割合を80%以上にする。 【児童アンケート】 ②標準学力調査において、平均正答率を全国平均以上にする。 【標準学力調査】	①児童アンケート94% ◎意図的に協働の場を設定したことで、多様な考え方を知ることや考えが深まり、協働で学ぶ良さを実感している児童が多い。 ②平均正答率【4年】 国…55.7(-11.1) 算…63.5(-8.9) 【5年】 国…58.2(-8.0) 算…63.9(-4.0) ◎友達との交流を通して深まった考えを、自分で整理し再度「書く」という指導が十分でない。	3	2	①各教科でペア・グループ学習を1時間に1回以上設定し、友達と考えることの良さを実感できるようにする。また、意見を聞き合う中で、自分の考えを整理し、文章でまとめさせる指導をする。 「書く」指導に対する具体的な取組を職員間で交流し、日々の授業改善に生かす。 ②基礎学力の定着に向けて、授業の導入場面で既習事項の確認や見通しをもたせる。終末では、定着をみとる課題を実施し、評価を確実にし、個別指導や授業づくりに生かす。 授業づくりポートフォリオの活用、帯タイムの充実、すきま時間の活用により基礎学力の定着、活学力の向上に取り組む。					
7	【豊かな心】 達成感・自己有用感の享受と自尊感情の醸成	★	継続	児童相互の立場の自覚を促し、お互いを尊重し合い、自尊感情の高い児童を育成する。	・行事を通じた振り返りを行い、練習や本番に目的意識をもって取り組めるようにする。 ・異学年との関わりの中で、相互に評価し合う場を充実させる。	③振り返りシートにおいて、「目標の達成に向けて努力した」と回答した児童80%以上にする。 【児童アンケート】	③児童アンケート89% ◎行事ごとに具体的に目標をたて振り返りを丁寧に行ったことの効果が表れている。	3	3	③学習や行事で、学校として統一した目標達成シートを用意し、実施する。実態に応じて、目標設定→自己評価→改善のサイクルで取り組める場面を意図的に設定し、達成感が味わえるようにする。					

				【主】【共】		④「自分には良いところがあると思う」と回答した児童の割合を80%以上にする。 【児童アンケート】		④児童アンケート 77% ◎学校生活で児童がお互いの頑張りを認め合う機会が少なかったり、それが児童の目に見える形になっていなかったりすることによって課題がある。		④各行事等で児童同士が良いところを認め合う活動を積極的に取り入れたりと、道徳や学活等の時間を活用して、良さを多角的・多面的に捉える取組をしたりする。また、これらの取組を校内や教室に掲示し、児童の自尊感情が高まるようにする。				
8	【健やかな体】 主体的に運動に親しむ態度の育成		継続	運動の楽しさ・喜びを味わい、自己の体力を見つめ、高めていこうとする児童を育成する。 【主】【課】	<ul style="list-style-type: none"> 運動の特性を味わわせる楽しい体育科の授業を展開する。 運動の必要性に気付かせる指導を工夫する。 児童一人一人が自己の特性や課題に応じた目標を設定して取り組み、体力向上の実感をもたせる。 	⑤体力づくりの様々な取組に参加し「運動の楽しさや喜びを感じる事ができた」と回答した児童の割合を、80%以上にする。 【児童アンケート】	4	3	⑤児童アンケート 93% ◎体育の授業でワークシートを活用し、個人目標の設定・実践・振り返り・改善等をPDCAサイクルで行った。 ◎男女ともに「ボール投げ」の課題が大きく、夏季研修で投げ方の指導法を話し合ったり、体育で身近な道具を使ってできる指導を取り入れたりした。	⑤グループ協議を取り入れて、児童間で教え合う、協働的な学びを取り入れる。また、そのような授業を全職員ができるよう、研修を充実させる。 タブレットで自分の動きを動画に撮り、客観的に見たり振り返ったりできるように活用する。 成功体験を積み、肯定的評価を随時入れていく。				

8	【活気ある教職員】 教職員の元気・やりがいの醸成		継続	やりがいを実感しながら業務を進めることのできる職場づくりを進める。(職員の自己肯定感) 【主】【課】	<ul style="list-style-type: none">各種計画を早めに提示し、勤務時間を意識しながら見通しをもった業務遂行ができる体制づくりをする。業務改善を通した学校組織の活性化を図る。職員個々の目標達成に向けて日常的に交流し合い、協働して取り組む職員集団づくりを進める。(時間の確保・プロセス評価・助言等)	⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合を100%にする。 【入退校時間記録表】 ⑦職員アンケートで「やりがいを感じる」職員の割合を80%以上にする。 【職員アンケート】	⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合は94%である。 ⑦どの職員が勤務時間を意識しながら業務を進めることができるか、成績業務等が多い期間は時間外勤務も多い。 ⑦職員アンケート100% ⑧夏季研修で業務改善について意見を出し合うことで、職員全体で意識統一を図ることができた。	3	3	⑥日々の業務内容を振り返り、会議の回数・内容を精選することで、学級事務等の時間確保につなげる。 企画委員会で、日々の業務について意見を吸い上げて、今後の業務改善に生かす。 入退校時間(7:20～18:00)の徹底、定時退校(週に1回、17:05までに退校)の徹底をする。 ⑦引き続き、全職員がやりがいを感じられるよう、個々の目標に対する評価、指導・助言を充実させる。					
7	【信頼される学校づくり】 保護者・地域から信頼される学校の創造	★	継続	学校・家庭・地域が学校の課題や取組・成果を共有・協働して児童を育てる。 【共】	<ul style="list-style-type: none">各種便りの発行やHPの更新を計画的に行い、学校の取組を保護者や地域に周知する。学校の取組や児童会の取組等に家庭・地域の協力を要請し、課題解決を図る。	⑧「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。 【保護者アンケート】	⑧保護者アンケート94% ⑨「すぐー」で各種便りや行事予定など、保護者に速やかに連絡することができた。	4	4	⑧引き続き計画的に通信を発行したり、行事等の変更については「すぐー」で連絡したりする。 担任と連携をとりながら、保護者や地域の方との対応を丁寧に行う。 地域の方と連携し、授業の中で児童との関わりをもてるようにする。					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。